

小松市立芦城中学校

学級数：14学級 生徒数：504人

【テーマ】

がんについての正しい知識を学び、がん患者と共に生きる社会について考える。

1 はじめに

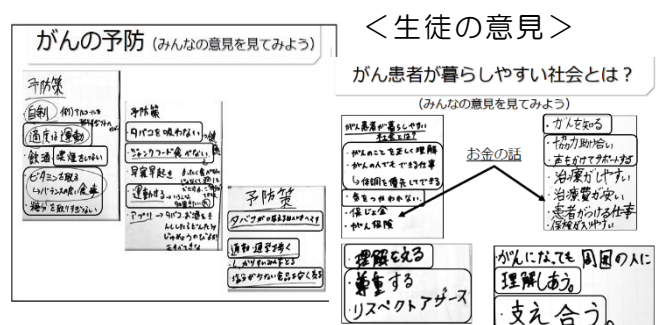
国民の2人に1人が、がんに罹患する時代である。その一方で、がん検診の受診率の低さや、がんに対する関心の低さや誤った認識も指摘されており、がんに関する基本的な知識を身に付けるとともに、がんについて学ぶことを通して命の大切さや自己の生き方について考えることは健康に関する基礎的素養として必要である。

また授業では、生徒の実態を踏まえ、医師であるゲストティーチャ（GT）の話を聞かなかで、正しい知識を身につけさせたいと考えた。さらに、がん患者や家族などのがんに向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、がん患者と共に生きる社会づくりについて進めていきたいと考えた。

2 実践

(1) 授業の流れ

2年生の保健体育科（保健分野）「生活習慣病などの予防」の単元（全4時間）の最後のまとめで、本事業を行った。まず、事前にアンケートを行い、がんに対する意識調査を行った。第1、2時では、生活習慣の予防のための基礎知識や個人で取り組める予防方法を学び、3時で、がんの知識を学んだ。がん検診の必要性や生活習慣が要因だけでなく、遺伝、ウイルス感染も要因となる知識にも触れた。グループで話し合い、「がんの予防法」「がん患者が暮らしやすい社会とは？」について意見交換した。結果をGTに見てもらい、当日は、その講評をいただいた。



(2) がん専門医との連携

事前のアンケートやグループ協議で出た意見について、解説していただいた。自分達で考えた意見が医師に認めていただけたことが、生徒が自分事として捉える大きなきっかけとなった。さらに、知識分野での補足があった。喫煙ががんに影響をもたらせる詳しい内容や、がん検診は、回数をこなせばよいというわけではなく、自治体によって推奨されている回数や年齢が定められていることについて、説明していただいた。また、専門家として、がん患者が普段抱えている声や悩みにも触れていただいた。

まとめでは、「自分や自分の家族ががんと診断されたらどうするか?」という問いについてみんなで考えた。考えた内容について話し合い、発表し、まとめを行った。



(3) 生徒の感想

☆将来、自分ががんと診断されたら？

- ・やはり生活習慣を見直し、自分と向き合いたい。
- ・自分自身も、気を使われるより、いつも通りに接して欲しい。

☆将来、家族のがんと診断されたら？

- ・変に心配するのではなく、できる限りのサポートをしてあげたい。
- ・正しい知識をもとに、寄り添ってあげたい。
- ・がんでも働きやすい職場を見つけてあげたい。

☆まとめ・振り返り

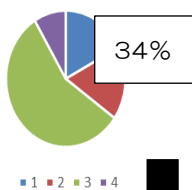
- ・早期発見の必要性を知れたし、そのために、検診を受ける大切さが分かった。
- ・がんに関わった人との接し方について、グループで話し合っただけで考える機会が良い経験になった。
- ・医師から正しい知識を学び、その知識があれば、自分や家族のがんになっても、正しく向き合えるし、がんであっても苦しまずに生活できる世の中になるのではないかと思えた。
- ・成長期の子供のがんの進行について聞いてみたかった。

3 生徒アンケートの結果

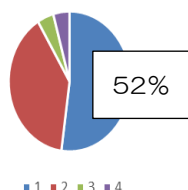
がん患者と共に生きる社会について考えるきっかけにしたかったため、以下の項目に着目した。

【実施前】

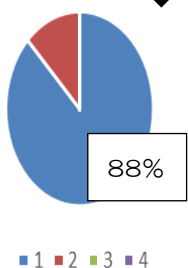
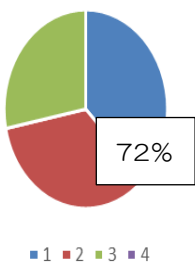
f(ク)がんになっても生活の質を高めることができる。



g(ケ)がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたいたい。



【実施後】



1 そう思う

2 どちらかといえばそう思う

3 どちらかといえばそう思わない

4 そう思わない

f(ク)がんになっても生活の質を高められる

実施前は1、2を選んだ生徒は34%に対し、実施後は72%に増加した。また、4を選んだ生徒はいなくなった。

g(ケ)がんになっても過ごしやすい世の中にしたいたい

実施前は1を選んだ生徒が52%に対し、実施後は88%に増加した。また、3、4を選んだ生徒はいなくなった。

4 実践の成果と課題

〇〇成果〇〇

・がん専門医の先生との授業を通して、がんに対する正しい知識を身につけることができた。また、生徒ががんに対して真剣に考え、自分事として捉える機会となった。日常生活の大切さを改めて実感する内容の振り返りが見られた。

・予防するためには、自分の生活を見直すだけでなく、検診を受けて、早期発見することの必要性も理解することができた。また、検診の内容は、がんの種類や年齢によって定められていることに気づくことができた。

・共生の視点として、生徒が自分だけでなく、家族や周囲の人に対して、どう接していくかまで考えを深めることができた。そのためにも、正しい知識を身につける必要性があると再確認できた。

◆◆課題◆◆

・医療現場の生の声を聞ける貴重な経験である反面、学年の全クラスで実施できたわけではないため、共有する時間の確保が難しい。

・講師の話を確認することに重視したことで、生徒同士の話し合いの時間があまり取れず、外部講師との質疑応答の時間も取れなかった。貴重な機会なので、90分の設定でも良かったのではないかと感じた。(2時間分の確保)